

薩長出身者が多くの要職を占めていた明治新政府の中で、25歳になった陸奥は伊藤博文と廃藩置県の意見書を発表するなど国政の中核で活躍していた。しかし紀州藩主徳川茂承から強い要請を受け、藩政改革のために紀州に戻り、津田出や濱口梧陵と出会う。津田は陸奥に廃藩置県の構想や四民平等の徴兵制の

重要性を説き、徴兵軍の総指揮官に就任し、日本初の徴兵制による洋式軍隊を設立した。またその財源確保のために石高の高い藩士を中心に大幅に俸給を削減し、プロイセン王国の下士官カール・ケッペンを招聘。当時としては日本最大級である2万人規模の軍を築き上げた。これらは後に明治新政府が実施した廃藩置県や四民平等、国民皆兵の徴兵制のモデルとなったといわれている。さらに津田は殖産興業にも力を注ぎ、洋式軍隊に必要な軍服や革靴の製造も地元で行い、和歌山の地場産業の成長にも貢献した。

紀州藩のこうした改革の成功は、明治政府にとっては脅威でもあったが、津田たちはその手腕を評価され、西郷隆盛らに請われて上京。津田は大蔵省次官に任命され、その後も陸軍少将や元老院議員などを歴任、また濱口も初代駅通頭に就任するなど活躍することになった。陸奥も国政に戻り、大蔵省租税頭に抜擢され、地租改正法案の策定に奔走したが、西南戦争に与した嫌疑をかけられ5年間も投獄されることになる。その間に陸奥は獄中から津田に手紙を書き、公私に渡って協力を願ったという。ようやく赦免された陸奥は、2年余りの外国留学を経て外務省に入省。そして第二次伊藤博文内閣の外務大臣に就任し、江戸幕府が諸外国と締結した治外法権の撤廃と関税自主権の一部回復を内容とする日英通商航海条約の締結に成功した。

新しい時代の幕開けに活躍したのは「カミソリ大臣」陸奥だけではなかったのだ。

陸奥宗光は勘定奉行まで務めた紀州藩の重職、伊達宗広の六男として生まれた。しかしその父は藩内の政争に敗れて失脚し、一家は困窮した生活を送ることとなる。そんな中15歳になった宗光は奮然し上京。その後、神戸に開校した勝海舟の海軍操練所で坂本龍馬と出会い、亀山社中や海援隊に参加。そこで才覚を開花させ、龍馬も一目置く存在となり活躍の場を世界へと広げて行く。

老院議員などを歴任、また濱口も初代駅通頭に就任するなど活躍することになった。陸奥も国政に戻り、大蔵省租税頭に抜擢され、地租改正法案の策定に奔走したが、西南戦争に与した嫌疑をかけられ5年間も投獄されることになる。その間に陸奥は獄中から津田に手紙を書き、公私に渡って協力を願ったという。ようやく赦免された陸奥は、2年余りの外国留学を経て外務省に入省。そして第二次伊藤博文内閣の外務大臣に就任し、江戸幕府が諸外国と締結した治外法権の撤廃と関税自主権の一部回復を内容とする日英通商航海条約の締結に成功した。

新しい時代の幕開けに活躍したのは「カミソリ大臣」陸奥だけではなかったのだ。

幕末と明治維新、激動の中 新世界の礎を作った紀州人たち

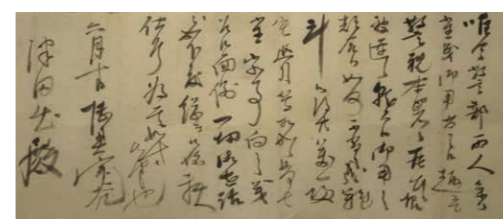


【陸奥宗光像】
和歌山城近くにある岡公園に建つ陸奥宗光像。

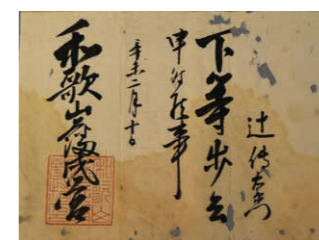


代々紀州藩の御典医を務めた郭(かく)家の七代目百輔(ひやくすけ)が自宅に建てたベランダコロニアルスタイルの診療所。奥座敷として利用されていた茶室棟が、陸奥宗光(伊達家)の生家の一部だと伝わっている。百輔は洋式軍隊の初代軍医も務め、総指揮官だった陸奥や津田らとも顔見知りであった可能性も高い。文明開化期の洋館は全国的にも貴重で現在登録文化財に登録されている。
郭家住宅
住所/和歌山市今福1-6-6

【紀伊徳川洋式演武之図】
カール・ケッペン(Carl・Cöppen)による軍事演習の様子を表す図。兵士はすべて洋装の軍服を着用し銃器を使用していることが見て取れる。(和歌山県立博物館蔵)



【陸奥宗光書状】
明治11年。陸奥が警察に連行される際に書いた津田への書状。帰宅できなかった場合に家族の世話を頼むなど二人の信頼関係がみとれる。(和歌山県立博物館蔵)



【交代兵辞令】
藩内全ての20歳男子を調べ、3年間の兵役につかせた。日本で最初の徴兵制である。(和歌山県立博物館蔵)



天保3年(1832)和歌山市で生まれた津田出(写真左)。安政元年(1854)江戸で蘭学を学び、蘭学教授を務めた。(和歌山県立博物館蔵)

和歌山市内にある旧家の蔵から、津田出の関連資料41件92点が発見され、その後購入者から2018年8月17日に和歌山市に寄贈された。これを機会に地元の偉人、津田出を多くの人に知ってもらおうと、和歌山県立博物館では、玄関ホールでの無料公開を実施。朝敵と咄められた紀州藩第14代藩主・徳川茂承の功績を称えた津田出直筆の「詠徳川中納言(とくがわちゅうなごんをえいず)」などの貴重な資料が展示される予定。

ホール展示「津田出」(仮称)
展示場所/玄関ホール(無料)
11月6日(火)~25日(日)

和歌山県立博物館
場所/和歌山県湊本町3-2
電話/073-423-0003

和歌山が生んだ文豪、津本陽さんを偲んで…。

陸奥宗光の生涯を描いた「叛骨」を読む



本誌14号の知事対談。

昭和4年(1929年)に和歌山市生まれ、昭和53年(1978年)に和歌山を舞台にした『深重の海』で第79回直木賞を受賞。武道への知識も深く、自ら剣道三段、抜刀道五段の腕前を持つ。歴史や剣豪、冒険、幕末英傑を主題にした歴史小説が多く、2010年には陸奥宗光の青春時代を描いた『荒ぶる波濤』(PHP研究所)を出版、2018年5月に惜しまれつつも89歳でこの世を去った。

『叛骨』は陸奥宗光の不遇だった青年時代から盟友ともいえる龍馬の死など、近代日本を創った男の怒濤の前半生と近代日本外交の礎を築いた波瀾万丈の生涯を描いた上下巻。



叛骨(上・下)陸奥宗光の生涯/潮出版社

find!
Tsuda
event